

# 平成 28 年沖縄県人口動態統計（確定数）

## 結果の概要

### 1. 出生数は減少

出生数は 16,617 人で、前年の 16,941 人より 324 人減少（全国：28,699 人減少）した。また、出生率（人口千対）は、11.6 で前年の 11.9 より 0.3 ポイント減少した。これを全国の 7.8 と比較すると、3.8 ポイント高く、その順位も昭和 49 年以降 43 年連続で第 1 位である。

1 日平均出生数は 45.5 人であり、31 分 38 秒に 1 人出生している。

合計特殊出生率は、1.95 で前年の 1.96 より 0.01 ポイント減少した。これを全国の 1.44 と比較すると、0.51 ポイント高く、昭和 60 年以降 32 年連続で第 1 位である。

### 2. 死亡数は増加

死亡数は、11,706 人で、前年の 11,326 人より 382 人増加（全国：17,304 人増加）した。死亡率（人口千対）は 8.2 で前年の 8.0 より 0.2 ポイント増加した。これを全国の 10.5 と比較すると 2.3 ポイント低く、平成 14 年以降 15 年連続で第 47 位である。1 日平均死亡数は 32.1 人であり、44 分 54 秒に 1 人死亡している。

### 3. 死因順位は悪性新生物が 1 位

死因別に見ると、死因順位の第 1 位は悪性新生物で 3,074 人、第 2 位は心疾患で 1,670 人、第 3 位は脳血管疾患で 932 人、第 4 位は肺炎で 872 人、第 5 位は老衰で 746 人となっており、心疾患、脳血管疾患、老衰は前年より増加している。

全国では第 1 位は悪性新生物で 372,986 人、第 2 位は心疾患で 198,006 人、第 3 位は肺炎で 119,300 人、第 4 位は脳血管疾患で 109,320 人、第 5 位は老衰で 92,806 人となっている。

### 4. 自然増減数は減少

出生と死亡の差である自然増減数は 4,911 人で、前年の 5,615 人より 704 人減少（全国：46,003 人減少）した。自然増減率（人口千対）は 3.4 で前年の 3.9 より 0.5 ポイント減少した。これを全国の  $\Delta 2.6$  と比較すると、6.0 ポイント高い。

### 5. 死産数は増加

死産数は 434 胎で、前年の 423 胎より 11 胎増加（全国：1,683 胎減少）し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は 25.5 で前年の 24.4 より 1.1 ポイント増加した。これを全国の 21.0 と比較すると 4.5 ポイント高くなっている。

死産の内訳を見ると、自然死産が 213 胎で前年の 202 胎より 11 胎増加し、人工死産が 221 胎で前年の 221 胎と同数である。

自然死産率は 12.5（全国：10.1）、人工死産率は 13.0（全国：10.9）で、自然死産

及び人工死産ともに全国より高くなっている。

#### 6. 婚姻件数は減少

婚姻件数は 8,464 組で、前年の 8,695 組より 231 組減少（全国：14,628 組減少）し、婚姻率（人口千対）は 5.9 で前年の 6.1 より 0.2 ポイント減少した。これを全国の 5.0 と比較すると、0.9 ポイント高く、全国第 2 位である。

1 日平均婚姻件数は 23.2 組であり、1 時間 2 分 6 秒に 1 組婚姻している。

#### 7. 離婚件数は増加

離婚件数は 3,700 組で、前年の 3,603 組より 97 組増加（全国：9,417 組減少）し、離婚率（人口千対）は 2.59 で前年の 2.53 より 0.06 ポイント増加した。これを全国の 1.73 と比較すると、0.86 ポイント高く、平成 15 年以降 14 年連続で第 1 位である。

1 日平均離婚件数は 10.1 組であり、2 時間 22 分 3 秒に 1 組離婚している。

#### <参考>

人口動態統計での自殺者数と警察発表の自殺者数では、以下の理由により差異が生じる。

	人口動態統計	警察の自殺統計
調査対象	日本における日本人	日本における外国人を含む
調査時点	住所地をもとに死亡時点で計上	発見地をもとに発見時点（認知）で計上
手続き上 (訂正報告)	不明の場合は自殺以外で処理し、死亡診断書等について訂正報告がない場合は計上しない	捜査等により、自殺であると判明した時点で計上

(厚生労働省作成「人口動態調査についてよくいただくお問い合わせ」より)